

T u t t i

岡山県合唱連盟機関紙トゥッティ117号

発行責任者：事務局長 内田 毅

事務局：岡山市中区福泊 168-7 内田方

TEL:090-4695-7826/FAX:086-274-2726

e-mail : utida2443@gmail.com

主な内容

- 2面 全日本合唱コンクール全国大会報告
高等学校部門 岡山城東高合唱部
- 3面 全日本合唱コンクール全国大会報告
室内合唱 倉敷少年少女合唱団
- 4面 全日本合唱コンクール全国大会報告
同声合唱 Coro Piacé

その音楽が私たちに求めるもの、私たちが求める場所

～第76回全日本合唱コンクール全国大会に学ぶ～

岡山県合唱連盟副理事長・合唱団こぶ 大山 敬子

まず、冒頭に祝福を送らせていただきます。

岡山城東高校合唱部、Coro Piacé、倉敷少年少女合唱団の皆様、今大会の全国出場、誠にありがとうございました。そして、倉敷少年少女合唱団は室内合唱の部で金賞第1位、来年の出場シード権を獲得されましたこと、岡山県合唱連盟の歴史の中での快挙となりました。素晴らしいご活躍となりました。皆様方の大舞台までのご研鑽に敬意を表します。

私は今大会の中学校・高等学校部門（10月28日・29日 香川県レクザムホール）、そして大学職場一般部門（11月25日・26日 りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館）を勉強しに行っていました。特に大学職場一般部門は全団体を拝聴することができ、大変貴重な体験となりました。

卓越した力を持つ団体の演奏を聴くことができた時間の中で感動し、涙した演奏に出会え、幸せな機会となりました。そんな夢のような時間の中に、ふっと私の心をよぎったことについて二つ書いてみようと思います。

一つ目は、「その音楽の求める演奏」が聴きたいと思ったことです。

楽譜の情報や楽譜の背景にある作曲家の思い、歴史的な事実など、その音楽が私たちに望んでいる声、息遣い、演奏の仕組み、音の姿・・・それを形にした演奏を求めて行きたいと強く思いました。

人数も多く磨かれた声の迫力があることがコンクールの高評価の物差しとなれば、作品の持つ「音楽」ではなくそれぞれの団体の持つ立派な声の力比べになってしまうのではないかという懸念です。

そんな思いを持ちながら聴いていた中に私の心を惹きつけ、ずっと心に深く刻まれた演奏に出会えました。中学校部門同声合唱の部に最少人数の9名で出場された北海道の中学校です。その音響の感動的な素晴らしさ、今までに体験したことのない美しさに涙が止まりませんでした。この演奏に出会えて本当に良かった。

二つ目は、部門編成のことです。部門改編から数年が経ちますが、全日本の改編の意図がどこにあるのかを改めて疑問に思うのです。

音楽が生まれる「場所」、音楽に出会える「場所」はどこなのか。マスメディアやSNSを利用した情報環境の中で音楽は消えて行かないとしても、人同士がそこに居合わせ、歌うという音楽に出会う場所は徐々に姿を消して行っています。特に学校という教育現場、そして職場です。様々な要因はあります。しかし、新潟での大学・ユース部門の参加の在り方や、混声部門に復活された職場の団体の周囲にあった、以前の職場部門の賑わいを考えるとき、大学での合唱活動の貴重さ、期待、また職場にいてなお歌い続けて行く希望、そんな「場所」を大切にしているという願いが見えて来ないのです。

疑問を呈しただけで申し訳ありませんが、紙幅が尽きましたので終わりにしたいと思います。

改めて、この全日本合唱コンクールの県大会、支部大会、そして全国大会に参加された皆様、音楽を愛してやまない方々に心からの拍手を送らせていただきます。



二つの全国大会を終えて今思うこと

岡山県立岡山城東高等学校合唱部 部長 田淵 まい

「人の心に響く演奏をして全国上位入賞」。
これはコンクール時期が始まる前、同期とミーティングを重ねて決めたコンクール目標だ。部員のほとんどが OJC の先輩方の歌声に心を打たれて入部してきたからこそ、私たちも同じように多くの人に歌で感動を届けたい、その気持ちを大切にこの目標が作られた。それはどんなときも力を与えてくれる精神的な支えになってくれた。そして私たちにとって大切な言葉になった。自分の無力を思い知らされ、自分の無力を思い知らされ、挫けそうになる場面、自分の声と対峙する地道で苦しい場面、本番直前のあの張り詰めて落ちつかない場面、その度にこの目標を口に出し、自分たち自身に強く言い聞かせ、練習に向き合った。

その結果として、私たちは念願の二つの全国大会に出場することができた。一つは、NHK 全国学校音楽コンクール。憧れの NHK ホールに立ち、プレスを吸った瞬間、全国に歌声を届けられる喜びがドッと込み上げてきた。演奏後には、聴きにきてくださった OGOB の方や保護者の方からあたたかいご感想をいただいた。さらに、自由曲「やわらかいいのち」の作曲者である松本望さんからも SNS 上でメッセージをいただけて、全力で曲と向き合ってきたと本当に良かったと思えた。

もう一つは、三年生と一緒に歌える最後の舞台だった全日本合唱コンクール。入退場時の盛大な拍手は今でも忘れられない。コンクール期間中、コンクールの練習と勉強との両立や、感染症による学級閉鎖など困難も多く、思わず涙がこぼれそうになるときもあったが、人の心に響く演奏をしたい！という揺るぎない気持ちと、隣で頑張る仲間のお陰で乗り越えることができた。また、顧問の森野先生の「どこの学校も皆、同じ条件で頑張っている。全てが上手くいくことはないんだよ。」といった言葉に勇気づけられることも多かった。

コンクールを終えた今、私たちはもう次の夏に向けて走り出している。年末の定期演奏会や、2月の岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストの練習を通して一人ひとりが自分の声と向き合い、一歩ずつ、着実に成長していきたい。

最後に、コンクール期間中ずっと支えてくださった顧問の先生方をはじめ、そばで努力し合った部員、一番近くで見守ってくれた家族、応援して下さった全ての皆様に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。これからも愛される OJC として感謝を忘れず、謙虚に努力してまいりますので、あたたかい応援を何卒よろしく願いいたします。



【編集後記】 Merry Christmas

とうとう今号も発行が遅れてクリスマスプレゼントなりました。5月に新型コロナウイルスに対する色々な規制がなくなり、コロナ前の状態に戻ってきました。各団体の演奏会も2019年の形で開催されており、また合唱が勢いを取り戻せばいいと思うこの頃です。

今年も色々ご無理をお願いしましたが、快くご対応いただき有難うございました。2024年も変わらずご協力をいただきますようお願いいたします。

事務局 内田 毅

全日本合唱コンクール全国大会 「金賞・文部科学大臣賞・全国1位」受賞のお礼とご報告

倉敷少年少女合唱団・指揮者・難波夕鼓

「倉敷少年少女合唱団……Gold 金賞！！」「キャー」「ウォー」団員たちの叫びが、新潟りゅーとぴあに響き渡った。2023年11月25日、全日本合唱コンクール「全国大会」表彰式での出来事だ。信じられない。やれるだけのことはやった。しかし、主力に不調もあり、また団員達からも「中国大会の方がよかった」の声多数。指揮者も中国大会では第1声を聴いて、これはいけると思った。中国大会では倉敷少年少女過去最高の演奏との声や、審査員全員一致の1位も頂けた。しかし、全国大会ではその手ごたえが感じられず、今回、金賞は無理なのではと思っていた。…しかし、その直後、もっと信じられない事が起こった！！

「文部科学大臣賞は……岡山県中国支部代表、倉敷少年少女合唱団！！」団員絶叫！！
驚いたことに「全国1位」を頂けたのだ。涙なみだの団員たち。



全国大会では、金賞受賞団の指揮者は舞台に呼ばれる。今年はその可能性はないような気がして、子ども達と3階の一番後ろにいた。1階のステージまで階段を駆け降りながら、涙があふれた。信じられないけど、子どもたちの努力が認められ本当に良かった…。

今回、本番の前日に、県連課題曲講習会などでも大変お世話になっている都留文科大学合唱団の清水雅彦先生から、急遽、試演会のお声がけを頂いた。しかし、今、団員たちが都留文さんの凄い演奏を聴いて自信を無くしたら？…心配ではあったが、全国トップレベルの合唱団と交流させて頂ける事は、全

国大会ならではの貴重な経験と腹を決めてお受けした。清水先生に短いアドバイスを頂き、残り時間で徹底的に直した。清水先生のお声がけが無ければ、今回の「全国1位」は全く大変感謝している。

遡って3月のアンコン全国大会「本選」では、全国トップレベルの高校に交じり「全国総合3位」を頂く事ができ、団員たちの自信となった。また、今回「全国1位」を頂き、団員達も大好きな3群12声部の「詩篇104」はじめ、2019年全国大会「カワイ賞」からご縁を頂いた鈴木輝昭先生の素晴らしい曲に感謝し、現在、委嘱新曲に取り組みさせて頂いている。

今回、永遠に近づけないと思っていた10連覇目前の絶対王者や、超ハイレベルな東京都総合1位、関西総合1位など、大人の超強豪団の方々が競う室内部門で全国1位、また中国地方初の全国大会シード権を頂けた事は、今でも信じられず、県連・全日本

の皆様、応援下さる素晴らしい先生方のお陰と、心より深くお礼申し上げます。皆様の応援によりお育て頂きました岡山県の子どもの合唱活動を今後ともご支援頂きます様、お願い申し上げます。

倉敷少年少女では、園児から多くの団員が生き生きと楽しく合唱やミュージカルに取り組んでおり、ジュニアクラスも「全日本こどもコーラスフェスティバル」選抜出場が決まりました。1月20日NewYearコンサートで「全国1位受賞曲」も演奏！歌の好きなお子様、ぜひ楽しい体験見学にご来場ください！（団HP参照）



感謝を込めて

Coro Piace 指揮者 大森友美子

信長貴富作曲 大手拓次作詩

女声合唱・オーボエ・ピアノのための「創造の草笛」

これは昨年12月「Coro Piace15周年記念コンサート」の為に、作曲家 信長貴富氏により書き下ろされ初演した新作である。それから約11ヶ月の間、我々はこの新作と共にコンクールの長い旅に出る事となった。8月、まだマスク生活の不自由さの中での岡山県大会。9月、山口県で行われた強豪揃いの中国支部大会では「金賞」「山口県知事賞」、そして思いがけず最優秀賞にあたる「全日本合唱連盟理事長賞」を受賞し、夢にまで見た2回目の全国大会へ出場する名誉を頂いた。11月5日は信長貴富氏を迎えて自主開催～西日本豪雨被災地の想いをつなぐ交流コンサート～信長貴富作品を歌う「信長まつり」の企画を進めており、団員達はコンサートの準備に追われる中で、全国大会と言う嬉しい試練を課せられる事となった。コンサートの受け入れスタッフとして、サクサクと役割りを見事にこなし、また演奏団体としても集中力のある良い演奏をした。

参加団体様の素晴らしい演奏と沢山の方々のご協力を賜りましたお陰で、交流コンサート「信長まつり」第一弾を温かく感動のうちに成功させる事が出来た。

それから息つく間もなく、全日本合唱コンクール全国大会の準備に入ったが、数人の体調不良者が出てしまう。我が団は1人欠けても代役はいない。パートの移動、立ち位置変更等、最悪のパターンを幾つか頭の中でグルグルと妄想する時間が続いたが、出発当日に奇跡は起きた！そこには20人の笑顔があった。

「新潟は寒く、雪が降るもよう」との前評判を素直に受け取り、ヒートテックやダウンジャケットを着込んで暖か対策を万全にして新潟入りしたが、「新潟は熱かった！」滝行か！と突っ込みを入れながら、流れる汗を拭う程、茹った。

当日は朝3番目の出演の為、事前に練習する場所が見つからず、早朝からカラオケ屋で声出しをして本番に挑む事になった。考える事は同じなのか他団体もカラオケ屋にいた。

一般・同声部門は少年少女や若い合唱団が多く、そのほとんどが50人前後の編成で、中には声楽家集団？と思われる様な団もあり、音色の深さと音圧においては次元が違い演奏は圧巻だった。それぞれ団体の特徴を生かしたレベルの高い熱演が繰り広げられる中で、我々アマチュア集団は楽曲の大きな力に助けられ、合唱・オーボエ・ピアノコンチェルトを、繊細且つ優雅さと多彩な音色で世界観を表現し、Coro Piaceらしい演奏に出会えた様に思う

ここに至るまでの道のりは厳しいものがあつたが、真摯に音楽に向き合い、仲間を信じて音楽創りをしてくれた団員の努力と、誰1人として欠ける事なく「りゅーとびあ新潟」の舞台に立てた幸運が何よりも嬉しかった。関わって下さった演奏家各位にも感謝と心からの拍手を贈りたい。音楽芸術の完成される事のない果てしなく厳しくも楽しい路を、これからも仲間と共に歩んで行きたいと思っている。

最後になりましたが、岡山県合唱連盟およびご支援頂きました皆々様に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

